

平成16年度第2回 全学FD
アンケートのまとめ

回収：111名分

質問1. あなたは、いずれの区分からの選出参加ですか。

全学教育実施部会 47名
各部局 64名

質問2. 事前に配布された資料は、FD参加の準備に役立ちましたか。

	全学教育 実施部会	各部局	合 計
役立った	24名	25名	49名
どちらとも言えない	19名	35名	54名
役立たなかった	3名	4名	7名
無回答	1名	0名	1名
合 計	47名	64名	111名

質問3. 講演「GPA制度の活用」（絹川講師）は、GPA制度の仕組みの整理に役立ちましたか。

	全学教育 実施部会	各部局	合 計
役立った	38名	52名	90名
どちらとも言えない	9名	8名	17名
役立たなかった	0名	4名	4名
合 計	47名	64名	111名

質問4. 講演「成績評価とGPA制度」（山本講師）は、GPA制度の問題把握に役立ちましたか。

	全学教育 実施部会	各部局	合 計
役立った	40名	47名	87名
どちらとも言えない	7名	9名	16名
役立たなかった	0名	5名	5名
無回答	0名	3名	3名
合 計	47名	64名	111名

質問5. 問題提起（淵田講師）は、分科会の準備として役立ちましたか。

	全学教育 実施部会	各部局	合 計
役立った	28名	24名	52名
どちらとも言えない	14名	25名	39名
役立たなかった	5名	6名	11名
無回答	0名	9名	9名
合 計	47名	64名	111名

質問6. 分科会は、GPA制度導入の準備として意義のある討論となりましたか。

	全学教育 実施部会	各部局	合 計
意義があった	25名	27名	52名
どちらとも言えない	21名	23名	44名
意義が無かった	0名	2名	2名
無回答	1名	12名	13名
合 計	47名	64名	111名

質問7. 全体討議は、GPA制度にかかわる課題の理解に役立ちましたか。

	全学教育 実施部会	各部局	合 計
役立った	20名	22名	42名
どちらとも言えない	15名	20名	35名
役立たなかった	1名	5名	6名
無回答	11名	17名	28名
合 計	47名	64名	111名

質問8. 来年度（平成17年度）入学生から適用されるGPA制度の導入に向かってタスク・フォースにおいて検討がなされる予定です。全学教育のみならず専攻教育科目の授業においても重要だとお考えの事柄など、具体的な意見や要望をお聞かせください。

〔全学教育実施部会〕

「評価の評価」のシステムづくりが必要ではないでしょうか。つまり進振に使う場合は専門過程から、就職に役立てる場合には企業から、GPAを使った評価が有益なものだったかどうかフィードバックし、評価の方法の改善に結びつける仕組みが必要だと思います。 / 2006年問題への対応は大丈夫ですか？学生のレベル、動向に大きく影響すると思います。 / GPAという尺度を導入し数字を出すだけなら簡単であろうが問題はどのように運用するかである。ICUの例のように、個々の学生に対

するきめ細かなカウンセリングが出来るアドバイザー制（現在の名目上の担任制ではなく、実質的に学生の修学状況を把握し適確な助言ができる教員の養成が必要）を同時に実施しないと絵に画いた餅である。 / GPAを卒業要件に加えるべきでない。 / GPA重みづけ法として必修と選択で区別をつけたほうがよいのでは？ / GPA制度において、履修登録取消し期限（時期）は重要事項です。3週間以内は問題ではないか？上智大学を参考にすべきと思う。 / GPA制度の導入と得点分布の正規化は論理的に結びつく話なのか？成績評価の標準化はGPA制度の導入とは別個に論じられることである。GPAと結びつけたが故にかえって問題の焦点があいまいになったように思う。 / アドバイザー制度のようなものがなくGPAが導入されれば学生にとってのメリットがない。 / クラス担任、アドバイザー、修学相談員、ピアアドバイザーetcの学生支援のシステムの整理を合わせて考えて下さい。 / しばらく導入しないほうがよいのではないかと？ / ティーチング・アシスタントの充実 / 講義のキャンセル時期を遅くする（6月、12月） / 統一基準について：九州大学の基準はどれくらいなのか明示してほしい。 / 同一科目でも成績評価の一様性（バラツキをなくす）を確保するのはむずかしい面がある。 / 評価基準の統一 / 履修登録の取り消し機会を増やすべき / "GPA"という英語名称ではなく、なんらかのわかりやすい日本語名称を考えた方がよいと思います。 / アドバイザーは学生を何人見るのが適正ですか？ / 科目においてはA～Dの評価よりも合否のほうがなじむものがある。（例えば語学でレベル別クラス分けにした場合など。）そのような合否クラスはGPA制度ではどのように扱うのか。そもそもそのような合否クラスの存在は否定されるのか。 / せつかく選択科目を増やしても授業のバラエティーを増やしてもGPAで得点上がる科目の履修が集中してしまい。教育効果がなくなるのでは？ / Academic Adviser制度は全学的に設置する必要がある。 / 病気などで受験出来なかった場合、GPAから除外する。 / 全学教育のみ導入というのではすまなくなると予想される。 / 再履修システムの確立 / 再履修でAを取った学生へもっと配慮すべき。導入案ではC評価にしかならない。再チャレンジで成功すれば取り返せると学生に思わせるべき。

〔各部局〕

0点科目をGPAに導入する必要はないのではないかと。 (0点科目の除外) / 15時間の講義に対する30時間の自学習を学生に実行させる(確実に)ための方策、教員の認識・徹底が必要と感じた。 / FDそのものに(実施法)大きな意義をみいだせない。 / GPA, FDなどの用語は不適切→日本語(訳語)で社会・学生に説明する責任がある。 / GPAの制度を示す文書を以下のことを明示しないと、このままでは形骸化する懸念があります。①アカデミック・アドバイザーをおくこと ②そのサポートシステム ③評価の標準化の努力をすること ④形成的評価が重要であること ⑤成績不良除籍制度(進路相談制度?)のこと。 / GPAよりも平均点で評価した方がよい。また、均質化を考えるなら偏差差評価の方がよい。 / GPAをどう利用しようとしているのかが不明である。その結果、FDも積極的な意見がでなかった。 / GPA導入に関してもう一度考えなおしてみる必要があるのでは？ / きちんとしたシラバス作成と成績評価基準の確立 / きめ細かな修学指導体制が全学的になれば教育改善として意味がない。 / どのような制度も柔軟な運営ができるかどうかでうまくいくかどうかが決まる。 / ミニマムリクワイアメントの設定をいかにするか十分な話し合いが必要 / 一元化した数値は選別や修学指導などに用いるのには便利だが、個性を無視するものであり、ミニマムリクワイアメントなどに用いるべきではない。 / 各学科/専攻ごとの年次進行教育プロセスの確立と「教養教育」のその中での位置づけの明確化がインフラとして不可欠 / 各講義において成績評価方法(配点)を学生に明示すべきである。 / "敢えて負の面について書くと、GPAは「知」の探究と相入れない側面がある。ポイントを取り易いカリキュラムを自分で組むようになると、その時点で人生の楽しみの半ばを放棄したのと同じ。成績は悪くても良いから広い科目を三択できるようにさせるのも大学としての見識である。成績はΣunitsで割ったもの(従来のGPA)と、ともにΣunitsでは割らない総得点も併記したらどうか。 / 文系は理科を学ぶべき、理系は文科を学ぶべし。若いころのモチベ

ーションに支えられた広い教養が魅力ある社会人を形成する。以上は全学教育についてである。専攻教育ではGPAのメリットを生かし高い専門知識を持つ人材を育てるべき。” / 共通テキスト, 統一テストの導入をすすめる。→評価の均質化 / 教育は大学にとって重要な使命である。教員が教育と研究を両立していくためには, GPA等の制度改革も考慮の域だが, 教員や技官等, 人員の充実も重要なことである。(人が足りないと教育もおろそかになってしまう!!) / 教員, 学生への十分な教宣 / 教員間の評価, 特に同一科目を複数教員で評価する場合, の統一 / 九大のGPAの考え方, 数値の見方, 使い方を対外的にどう広報するのか / 現在でも学習意欲をなくして単位を取れないでいる学生がいますが, GPAの導入はそれらの学生をさらに追いつめたりしないでありませうか? / 現場以外の教員(研究所等)にもGPA制度の理解を丁徹してもらふ必要があると思う。 / 国家試験のある医・歯・薬の専攻科目に適用するのは止めて下さい。 / 実際に運用するまでに, 試行期間を設けられないか? / 周知期間が短すぎる(学内及び入学希望者(受験者)に対して) / 少なくとも1年前にこのような会を設定すべきであると思う。 / 折角GPAを算出しても成績不良者に対するアドバイザーがしっかりしなければ有効な活用にならない。現在, 既にフル回転中の教職員に支援のための時間をさけるのか疑問, 大学カウンセラーのみに依存するのは問題解決にならないと思う。アドバイザー制度の確立が急務。 / 絶対評価と相対評価の検討が必要 / 選択科目において, 評価基準を統一するのは難しい。 / 全学教育も専攻教育科目もGlobal Standardという視点から教える内容を精選し, 評価基準の統一性を目指すべきであろう。 / 導入の意義がわからない。 / 文学部の場合, 少人数による演習(原書講読)等の授業形態や, 講座制による授業選択の自由度が比較的少ないなど, 絹川先生のご講演にある様なGPAの前提条件にそぐわない様に感じました。また厳格な成績評価≠GPAという様に, 成績評価の方向性としては, 統一的基準による数値化と同時に, 多様な価値や個性をより積極的に評価する方法が(とくに文系学部においては)あると思われるのですが, とくに後者に対する評価をどうしていくのか?という問題の検討ぬきにして全学的にGPAを導入するのは危険だと思います。大学における成績評価は確かに重要な問題だと考えますが, 人文系(特に哲学・思想分野)でアメリカからは優れた学者や思想家があまり出てこないことを考えると, 全てアメリカの制度を参考にするのはいかがでしょうか?もっと英独仏など諸外国の大学の事情を調査し, 今後, 九州大学が目指すべき教育理念を確立した上で, 成績評価の問題を考えるべきだと思います。 / 要するに, これは鹿鳴館現象也(・数字で世間をあざむく。・米国というだんな様の歓心を買う。・外装であり中身でない。) / 履修単位の上限設定などとセットではないので導入後の学生のメリットがみえない。 / 評価0をどの様に考えるか。すべてDであっても卒業可とすべき / FDを何回やった等の評価基準にしばられすぎ。1日とるFDは時間のムダ。もっとする仕事があるでしょう。 / アカデミック・アドバイザーとそのサポートシステム(データのとりまとめ, FDなど)について設置すること, その根拠となる予算の確保 / GPA導入は, 学生指導, 授業のあり方などのツールのひとつとして利用することはよいと思うが, 学生の順位付け, 卒業要件などにはすべきではない。むしろ, どのような成績評価法を導入しようと, 学生指導(アドバイザー)や授業のあり方を改善するためのシステム作りが最重要であると考え。 / 授業担当者間の協議の重要性と改善 / きめ細かな修学指導体制は人手が要ります。 / 運営のKeyはアドバイザーの関わりの部分である。 / 成績評価の教員間のバラつきをなくす工夫が必要だ。例えばクラスの成績を偏差値化することも可能だが, そのような評価は社会的に反対が多い。 / TA機能の強化(単位取得の技術的アドバイスからアカデミックなアドバイスに及ぶ指導機能)。その予算的裏付け。 / 履修中止がzero点になる事の徹底 / 基準(平均)点の設定(2.6?) / Aの程度をどうするのか, 「特に」とは?合意が必要。(ICUでは要求以上のことを自発的に修得した場合がA) / カリキュラムの大幅改訂が必要であると思う。 / アカデミック・アドバイザーは誰が担当するのでしょうか? / 試行データ不足?対策としては, 欠=E, D以上か?従前の可=C。 / 他大学では学生の成績を父兄に(郵送)通知している所もある。両親に対し入学時(or 入学試験時)にGPA法や通知のことなど説明することも必要である。 / 成績評価が甘くならないよ

うに対策を考える必要がある。 / 学生や社会のニーズを適切に把握し、それを教育システムに反映するしくみを検討する必要がある。 / 全体討議の中で、「GPAの制度について、色々と試行錯誤しながら、完全なシステムを作る」という趣旨のお答えがあったが、教職員は長い年月九大に籍を置くために、その様な事を言えるが、学生は4年（あるいは大学院を含めて+2~5年）間在籍できない訳で、その様に限られた時間の中で、不完全なシステムで判断される事の不利益を本部の方々には「真剣に」考えて欲しい。 / 前川レポート以来この国を覆い尽くしている「まだアメリカになりようが足りない」という、おろかな風潮の教育Versionである。 / 学部教育の実状に鑑みると導入は意味がない。 / 履修中止制度（上智大学）の有要性は？（これを取り入れるべき） / こうゆう会を1時間半ですますように企画することがウデのみせどころではないですか。（1日ではなく） / 追・再試験の成績の取扱いについて / 単に事務上評価上の指標が欲しいだけではないかと感じます。学生・教育が相互に緊張を持つ工夫にする必要があります。 / アドバイザーのような個々の学生の修学指導体制を同時に確立させる必要がある。 / 再履修ならば過去は消すべし（品質保証とは現在の品質） / GPAの各年度における評価と修正 / 学科間での比較に使わないことを決めた方が良い。 / 海外の事例を紹介してもよかったと思う。文化的なことであるので全て参考にならないが、歴史があるので、良い面、悪い面が参考になると思います。 / 上智は手間をかけていることがわかった。（ただし大学院は？） / 熱心な教員の授業が高得点を得ても良いのではないかと思う（名物教員の存在）。数値化、平均化することで教員のヤル気がそがれるのではないか。反対に共通理解をしようしない教師に対する対策は？担当者をかえる力を持つ人はあるのか、出来るか疑問。 / GPAの平均値と評価点の平均値は一致しない。（逆転する場合がある。例：80+80点 GPA：3+3 / 89+79点 GPA：3+2） / GPAの成績は学部独自の運用をしてよいか（例えば・学外実習の要件・研修病院マッチングなど） / クラス間のバラつきや、学年間のバラつきはある程度あり得ることであり、完全な成績の規格化はするべきではないし、教員の評価などに用いるのは誤っている。 / 絶対評価なのか相対評価なのかのスタンス明確化。平均2.6ならば相対評価。 / 教員のGPAに対する責任と学生に対する指導の明文化 / 0点を加える、加えないの議論が出ていますが、GPA制度が全国的に統一したものでないと意味をなさないのではないのでしょうか。 / 専攻教育科目は重要だが担当教員がプライドをもって行っているので、後日にまわし、現在は、大学在学中の教育効果の大きな要因である全学教育について徹底するのが良いと思う。 / GPAの導入の意味と使用方法についての教官の理解が十分に得られていない。議論が必要 / そもそも十分現場で論議しないでGPAをトップダウンで決めたことが問題である。導入を先送りすべきでないか？ / 'H15~16の成績についてGPAを算出し「学生の授業評価」と比較したデータも興味深い。個別に各担当科目に提示して欲しい。 / 80, 80, 80, 70, 70の人と79, 79, 79, 89, 89の人とでは点数的だと後者が上だが、GPAでは前者が上となる。GPAの利用は問題が多い。 / 制度の見直しは何年ごとに実施する計画でしょうか？